

# 年金からの住民税天引き 来年10月から 自民、公明、民主などで条例改正可決

9月定例議会に「羽村市税賦課徴収条例の一部を改正する条例」が提案されました。

主な内容は

個人市民税の地方公共団体への寄付金控除の拡充（ふるさと納税）

個人市民税を公的年金からの特別徴収（天引き）の導入

上場株式等の譲渡益、配当の軽減税率の廃止と緩和措置の創設、譲渡益と配当との損益通算の導入 となっています。

の年金からの天引きとなる人は羽村市でおよそ3300人と見込まれています。年金からはすでに所得税、介護保険料に加えて、今年4月から国民健康保険料と後期高齢者医療保険料が天引きされています。税金は自ら申告し、自ら収めるのが原則なのに否応なしに税金を徴収することは問題です。年金だけで暮らしている年金受給者などから怒りが広がっています。

の株の配当、譲渡益の税率は20%から10%に減税されていたものを「金持ち優遇」との国民の批判で元に戻すものですが、損益通算の導入などで、金融資産をもつ富裕層優遇をひろげることになります。

以上のことから共産党は条例改正に反対しましたが、自民、公明、民主などの賛成多数で可決しました。（下表参照）

議案に対する各会派の態度 反対 賛成 一議長は採決に加わらず

議案	共	ネ	世	民	羽	21	公	風	市	新
平成19年度一般会計決算						-				
平成19年度羽村駅西口土地区画整理計決算						-				
平成20年度一般会計補正予算（第2号）						-				
市税賦課徴収条例改正						-				

共：日本共産党（中原、高橋、市川） ネ：市民ネットワーク「いきいき広場」（門間）  
世：世論（山崎） 民：民主党（馳平、大塚） 21：羽村21（水野）  
羽：羽村クラブ（中根） 公：公明党（露木、石居、西川） 風：新しい風（小宮）  
市：市民クラブ（川崎） 新：新政会（船木、瀧島、濱中、橋本）



2008年11月2日 No.914  
発行 羽村民報編集委員会  
責任者 野崎 衷  
日本共産党羽村市委員会事務所  
電話 579-2132 FAX 579-2106  
http://www.jcphamura.org

## 無料法律相談

11月11日（火）午後1時半～  
羽村市委員会事務所 \*要予約  
中原まさゆき TEL 554-1163  
市川 えい子 TEL 554-1140  
鈴木たくや 080-1058-9450



# 羽村民報の題字について

羽村町で初めての日本共産党町議となった木下卯一さんが最初に町議選に挑戦した1967年に羽村民報は創刊されました。木下さんはその時は当選しませんでした。議会の傍聴、住民要求実現、駅頭宣伝を続けるなどねばり強く活動をし、4年後の1971年には見事トップ当選を果たしました。この年に木下さんと親交があった中里介山の実弟 中里幸作さんに羽村民報の文字を書いて頂いたそうです。下の写真は今年の8月に日本共産党の土橋一吉衆議院議員（当時）が訪れ、懇談したときのものです。

1880年代、三多摩各地に自由民権運動の火が燃え上がり、その名残がある時代に中里介山や幸作さんは育ちました。その後日本は日清戦争、日露戦争、太平洋戦争と軍国主義の時代に突入しました。1945年、長い戦争と軍国主義の時代が終わると、全国で進歩的・民主主義的運動が広がりました。自由民権運動の歴史をもつ多摩地域にも新しい動きがわきあがり、中里幸作さんもこれらの運動にかかわって来たとのことです。



土橋一吉衆議院議員（当時）と中里幸作さん

## 中里介山

長編小説「大菩薩峠」で知られる羽村が生んだ作家。社会主義思想に共鳴し、日露戦争時には、堺利彦を羽村に招き、日露非戦運動を展開しました。その後社会主義からは離れていきますが、晩年も反骨精神は衰えず「太平洋戦争下、日本ファシズムの吹きあれるさなかに、出征兵士の壮行風景を見ては『生き葬ひ！』とつぶやき、(中略)すべての文学者たちの入会を強要する日本文学報国会にただひとり敢然と入会を拒否する、といった気概をしめしています。」(羽村町教育委員会発行「はむらの歴史」より・右写真も)

晩年の中里介山

